

2008年3月期 第1四半期決算発表 アナリスト向け説明会質疑応答

平成19年7月31日
富士重工業株式会社

Q：営業利益の増減要因について、上期と下期の売上構成に段差があるが、これはインプレッサとフォレスターの新車効果が下期に寄っていると認識してよいか教えてほしい。

A：売上構成は、上期に▲182億円、下期に+157億円、通期で▲25億円と考えています。これはインプレッサの新車効果を下期に見込んでいるためです。旧中計から取り組んできた台当たり10万円の原価低減が効いてくる第1号車がインプレッサであり、下期になれば世界的に販売で寄与してくると考えています。

Q：台当たり10万円の原価低減がネットでいくら残るかということについて、新車効果はネットで見てかなり大きいと考えてもよいか教えてほしい。

A：ネットは市況の悪化などもあり予断を許しませんが、影響額は大きく見込んでいます。

Q：インプレッサはグレードを問わずにどの車種でも10万円の原価低減効果が効いてくると期待してよいか教えてほしい。

A：加重平均ミックスで取り組んできましたので、ターボ車が高く、1.5Lモデルは少なくなっています。

Q：新型インプレッサについて、将来的なグレードミックスの悪化を心配する必要があるか教えてほしい。

A：インプレッサのグレードミックスについてはほぼ当初計画通りに進んでいます。インプレッサには1.5Lと2L（NAとターボ）があり、1.5Lは60%、2LのNAは20%、2Lのターボは20%でそれぞれ推移しています。経年変化によりどの程度変化してくるかは予断を許しませんが、1.5Lが6割を大きく上回ってグレードミックスが大幅に変化することはないと考えています。

Q：国内通期の販売台数について、期初計画から変更があれば教えてほしい。

A：国内販売台数については、期初計画から変更していません。レガシイの販売台数が弱含みになっているのはリスク要因として認識していますが、インプレッサの出足が好調なので台数は変更していません。

Q：豪州は円建てになっているが、豪州ドルに対して円安が進んでいるなか、今後の価格調整が決算に与える影響を教えてください。

A：半期ごとに現地と価格の改定交渉をしています。為替や現地での円の予約状況に応じて、価格改定の効果は半年遅れではありますが、円ベースで出てきます。

Q：国内ディーラーの経営状況について教えてほしい。

A：出資ディーラーについてはほぼ前年並みの状況です。部品や整備の収益が弱含みとなっており若干苦戦しています。

Q：航空宇宙カンパニーに関して、通期見通しを教えてください。

A：航空宇宙カンパニーの通期営業利益見通しは39億円で、既に22億円が出ていますが見通しの変更はいたしません。今後、ボーイング787などの開発売上が出てきますが、最初のうちは過去の試験研究費などの経費が出てきて利益水準が低いからです。

Q：米国のインセンティブについて今年の実績、状況を教えてください。

A：上期に1800ドル（1Q：2,300ドル、2Q：1,400ドル）、下期に1400ドル、通期で1600ドルを計画しており、現在はこの想定線上で推移しています。新型トライベッカやインプレッサの販売状況にもよりますが下期も当初計画通りに進むと見込んでいます。

Q：米国の7月の販売状況について教えてください。

A：小売ではトライベッカが弱含みになるなど前年実績を下回っていますが、計画はほぼ達成できる見通しとなっています。

Q：SOA、SIAについて、第1四半期は赤字になっていたが、今後の計画について教えてください。

A：SOAは第2四半期も赤字の傾向が続きますが、下期には新型トライベッカやインプレッサの効果が出てくるため黒字化すると考えています。SIAについては、第1四半期は生産台数が少なく赤字でしたが、第2四半期には生産台数が増えるため上半期で黒字化する見通しです。

Q：米国販売の期初計画について、上期は前年同期で1,500台増の計画になっていたが、第1四半期は7,300台の減だった。第2半期ではその分も含め9千台近くを取り戻すという認識でよいか教えてください。

A：第1四半期は7,300台の減となったため、第2四半期は8,700台の増を計画しております。主な要因として、第1四半期にはレガシイのモデルイヤー切り替えて卸売りを控えておりましたが、第2四半期には前年対比出荷が進んでいます。

以上